

平成27年度
第3回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成27年7月29日（水）14：00～16：00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成27年度第3回基本政策審議会 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行相談役
おかもと 岡本	れいこ 玲子	岡山大学大学院保健学研究科教授
かじたに 梶谷	しゅんすけ 俊介	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしおね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こまつ 小松	やすのぶ 泰信	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
こやま 小山	あきら 旭	岡山市連合町内会副会長
しおみ 塩見	まきこ 槇子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授
たかはた 高旗	ひろし 浩志	岡山大学教師教育開発センター教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） お待たせしました。ただいまより平成27年度第3回岡山市基本政策審議会を開催いたします。開会にあたりまして越宗会長よりご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

○越宗会長 越宗でございます。委員の皆さまには、岡山市の新たな総合計画の策定につきまして、ご審議をいただきますために、大変お忙しい中、そしてまたお暑い中、本日もご出席をいただきまして誠にありがとうございます。今日は、会議次第にございますが、27年度第3回目の審議会であります。昨年末の第1回から通算しますと5回目になりますでしょうか。この審議会では、今年の3月以降、3回にわたりましてテーマ別に、皆様にご審議をいただいております。

これまで岡山市の事務局から、提出されました種々のデータをもとに、皆様からご意見を述べていただいているわけでありましたが、今日から引き続きまして、3回にわたりまして、政策分野別の重点課題、そして長期的な方向性につきまして、ご審議をいただくということになっております。今日は次第にございますように、「健康・医療・福祉」などの5つの分野につきまして、後ほど説明がありますけれども、岡山市各部局が作成されました現状と課題、そして長期的な方向性に関する考え方の資料をもとに課題の把握が適切なかどうか、あるいは各分野の重点課題というのはどういうものなのか、何があるのか、それから長期的な方向性にはどんな考え方を盛り込むべきなのか。そういった視点から皆さんにご議論いただきたいと、考えております。

それぞれのお立場からご意見を賜りますが、分野におきましては私から最初に、2、3の方にご意見をいただいた後自由に述べていただこうと思っております。ひとつ実りある議論ができますように、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○事務局（植月） 続きまして本日の委員の皆さまの出席状況ですが、2名の委員の方がご都合によりご欠席でございます。なお基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。申し遅れましたが本日の司会を務めさせていただきます、総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事進行につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 それでは早速、会議次第に沿って議事を進めていきたいと思いますが、まず議事に入ります前に、本日、池田太郎委員のご退任に伴いまして、岡山市東区平島学区連合町内会長でいらっしゃる小山旭さんが、6月1日から新たに委員にご就任になっております。小山さんにひと言ご挨拶をいただきたいと思います。

○小山委員 皆さん、こんにちは。連合町内会を代表しまして池田先輩の後を受けて、これから皆さん方と一緒に会合できることを本当に心からうれしく思っております。何も分かりませんが、ただ地域の声は地域の声としてしっかりと話すところもあると思います。平島学区町内会としていま9年目です。まだまだこれからですが、一つよろしく願いいたします。

○越宗会長 どうぞよろしく願いいたします。それでは続きまして、傍聴の取り扱いについて、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（植月） はい。本日は現時点で傍聴希望者が2名いらっしゃいます。特に支障がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、本審議会を公開といたしまして、このあと傍聴希望者が来られた場合につきましても傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 はい。本日の審議につきましても特に支障になるような事情はないと思われるので、公開にしたいと思いますが、それでよろしゅうございますか。はい、ありがとうございます。それでは本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局（植月） はい、それでは入っていただきます。

3 協議事項（1）「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性」について

○越宗会長 それでは会議次第に沿いまして、協議事項（1）の「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性」について協議をいたしたいと思います。まずは事務局から資料の説明をお願いいたします。

○事務局（門田） 事務局の総合計画課の門田でございます。恐れ入りますが座って説明させていただきます。よろしく願いいたします。

それではお手元のまず資料1でございますが、スケジュールについては特に変更はございません。その中で一番下に市民参加ということでワークショップ5回というのを8月頃書いてあるかと思いますが、これについてはちょっと動きがありますので少し報告させていただきます。お手元に正式な資料と別に、ワークショップ参加者募集のチラシをお配

りしているかと思いますが、これをご覧になっていただきますと、すでに7月25日の土曜日、それから26日の日曜日と、2回にわたってまちづくりワークショップを開催したところでございます。引き続き8月8日、9日とまちづくりワークショップを開催し、それから8月30日には若者100人ワークショップを開催いたしまして、そこでいただきましたご意見につきましては、後日取りまとめまして審議会にもご報告をさせていただきたいと考えております。それからこのワークショップの開催にあたりまして、多くの委員の皆さまに、地域の方ですとか学生の方とかにお声掛けをしていただいているかと思いません。大変ありがとうございます。引き続き若者100人ワークショップ、締め切りがまだでございますので、ご協力いただければありがたいなと思っております。よろしく願いいたします。

それでは資料2をご覧ください。これもすでにお示ししたものと変わってございません。先ほど会長のご挨拶にもございましたように、今日から8月下旬にかけて3回にわたって政策分野別の長期的な方向性や重点課題について、ご審議いただきたいと考えております。そして、その後、9月以降に長期構想に係る答申案の審議ということで予定をしているところでございます。

それでは本日のメインの資料になります、資料3を説明させていただきます。資料3は枝番がございまして5分冊になっております。3の1から順番にご説明をさせていただきます。まず資料3-1の「健康・医療・福祉」でございますが、表紙をめくっていただきまして、1ページでございます。現状と課題というところで、まず国の動向でございますが、社会保障制度改革国民会議の報告書におきまして、高齢化の進展によって医療の内容が「病院完結型」から「地域完結型」に変らざるを得ないと。受け皿となる地域の病床、在宅医療、介護の充実が必要と。また、地域ごとに医療、介護、予防に加えて、切れ目なく継続的に支援できるような、地域包括ケアシステムの構築が必要であるといったような考え方が示されております。

次の健康づくり・生きがいくりに関する岡山市の状況でございますが、以前ご報告しましたように岡山市の健康寿命は、男女ともに政令市比較の中では比較的短くなっております。こうした中で岡山市ではスマートウェルネスシティ総合特区に加入して、健幸ポイントプロジェクトを実施しているところです。国民健康保険一人当たりの医療費ですとか、要介護の認定率で見ますと、岡山市は指定都市の中で高めということになっております。介護給付費のほうも年々増加してきておりまして、今後も増加の見通しということでございます。こうした状況を踏まえまして、矢印の一番最後のところに書いておりますが、増え続ける医療・介護費用の適正化にも繋げていくためにも、健康設備の充実、生涯現役社会づくりなどが求められていると考えております。

次の医療・介護のほうでございますが、岡山市は医療・介護資源が充実しているということでございます。また3番目の丸にありますように、保健・医療・福祉・介護サービスの総合相談窓口となる地域ケア総合推進センターの設置ですとか、在宅介護総合特区など、

全国の中でも先進的な取り組みを展開してきております。認知症施策の分野でも、岡山市版オレンジプランを全国に先駆けて策定し、推進しているところでございます。今後、これらの先進的な施策をさらに推進して、地域包括ケアシステムを構築するとともに、認知症高齢者等を地域で支える仕組みを構築するといったことが必要になると考えております。

それから2ページが一番上でございますが、障害者・生活困窮者等の状況ですが、障害者の数が増えてきております。特に近年、精神障害者の方、大幅に増加をしております。それから生活保護世帯も、高齢者世帯ですとか障害者世帯ではない、その他の世帯というところで近年急増しているという状況がございます。

こういった状況、課題を踏まえまして、政策展開の長期的な考え方としては、まず一つ目の柱として「生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくり」を進めていきたいと考えております。そのため、先ほど申しました健幸ポイントプロジェクト等、健康寿命延伸施策を企業とか愛育委員、栄養委員などと連携して推進し、地域での健康づくり、歩いて楽しいまちづくり、身近な場所で健康相談ができる環境等を整備することによって、健康寿命を延ばしていきたいと考えております。また、高齢者の社会参加・就労支援等を推進して、生涯現役で活躍し続けられる社会を築いていきたいと考えております。

二つ目の柱といたしましては「豊富な医療・介護資源を生かした安心の暮らしづくり」を進めていきたいと考えております。そのために医療・介護が必要になっても、あるいは認知症になっても誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる社会を目指していきたいと考えております。

三つ目の柱としては「ともに生き、ともに支え合う、安心の地域社会づくり」を進めていきたいということでございます。

資料3-2の「教育」のほうに移らせていただきます。1ページをご覧ください。まずちょっと国の動向につきましては時間の関係で割愛をさせていただきます。教育分野で岡山市として特に切実な課題としてとらえておりますのが学力、それから問題行動等でございます。まず、学力に関する岡山市の状況でございますが、全国学力・学習状況調査では、岡山市は正答率が国より低いという状態が続いております。その要因として考えられることというのが、囲みの中に記載をしております。一応仮説ということでございますが、子どもの授業への満足感が高まっていない、それから教員が多忙で、教材研究等の時間が十分にとれていない、それからスマートフォンやゲーム機等の、子どもの家庭での過ごし方に課題がある、という3点が要因ではないかと考えているところでございます。これを踏まえて、矢印の一番下ですが、子どもたちが意欲を持って学び、分かったというような満足感が持てる授業を行っていく必要がある。それから2ページ目の一番上ですが、教員が教材研究や授業研究を行う時間を生み出す必要がある。さらに家庭学習の充実、それからそういうのを定着させる生活習慣の改善を図る必要があるというように考えております。

それから学力とともに切実な課題である問題行動等に関する状況でございますが、児童生徒1000人当たりの暴力行為の発生件数を見ますと、小中学校ともに国や県の発生率

を上回っている状態が続いております。不登校の児童生徒の出現率についても同様に、小中学校ともに国・県を上回っているという状況でございます。同じく囲みの中に要因として考えられることを記してございます。学校適応感を測る質問紙調査の結果を踏まえまして、集団の中で良好な人間関係を築いたり、力を発揮したりする力が比較的弱いのではないか、それから学校生活の時間の大部分を占める授業に、子どもたちが十分に満足感を持っていないのではないか、といったことが考えられます。こういったことを踏まえまして、課題が深刻化した子どもを対象に支援することはもちろん大切なのですが、それ以前に望ましい学級集団づくりに努める。子どもがより良い人間関係を築く力を養い、問題行動等の未然防止に取り組む必要があると考えております。また、子ども全員が意欲を持って参加できる授業づくりを行う必要があると考えております。

大きな二つの課題以外のものとしたしましては、まず郷土を愛する心ということで、地域の文化財や自然等を授業の素材としてどう活用していくかということも課題としてございます。それから少し飛ばさせていただきます、3ページの上から二つ目の健やかな体、食育というところですが、中学校2年生の女子のデータを見ますと、1週間の総運動時間が1時間に満たない生徒の割合が25%に達しているということでございます。子どもの運動習慣の定着が課題となっております。また、学年が上がるにつれて朝食の摂取率が下がっております。食習慣の改善や食育の推進が課題となっております。

それから学校園と家庭・地域社会との協働に関する状況でございますが、岡山市は地域協働学校の指定数が全国で2番目に多いということです。今後さらに充実が必要だと考えております。それから家庭教育については、相談できる人がいるかないかということが、家庭教育ができていのかどうかと大きく関わっているということで、子育ての孤立化を防ぐための相談支援体制の充実等が必要だというふうに考えております。

それから教職員のほうですけれども、教員の年齢構成は中堅どころ、特に40歳代前半の教員が少ないという構成になっております。このため教職員研修では若い世代を含めたマネジメント力向上の研修や、日常業務の中でOJTを推進していく必要があると考えております。

それから生涯学習のほうでございますが、一番下のところ、公民館では、市民のESD活動の拠点としての役割をさらに高めていく必要があると考えております。

以上のような現状と課題を踏まえまして、5ページ目の最後のところでございますが、政策展開の長期的な考え方としましては「知・徳・体の調和のとれた自立する子どもの育成」、それから「学校・家庭・地域社会が連携した教育環境の充実」、「生涯にわたる豊かな学びの充実」。この三つの方向性をもとに、取り組みを進めてまいりたいと考えております。

それでは続きまして、資料3-3の「子育て・若者」に移らせていただきます。まず1ページをご覧ください。まず国の動向でございますが、少子化社会対策大綱では待機児童の解消等の子育て支援施策の一層の充実や結婚、妊娠・出産、子育ての各段階に応じたきめ細かな少子化対策の推進等の指針が示されております。また、三つ目の丸ですが、国の

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるという基本目標が掲げられております。

それから次の少子化、未婚・晩婚化というのは大変重要な項目であるのですが、これについてはすでにいろんなデータをお示しして議論いただいておりますので、説明は省略させていただきます。それから次の待機児童、放課後児童のところは、私ども市当局としましても特に大きな課題意識を持っております。二つ目の丸のところに書いておりますように、保育園の創設・増設等を岡山市も努力し定員を増やしてきておりますが、現状ではそれを上回るペースで入園希望者が増加しております。27年4月には待機児童134人が発生しました。加えて、希望しても入園できない未入園児が804人存在しております。その中には自宅や勤務場所から距離が離れた保育園を紹介されたり、兄弟で別々の保育園を紹介されたりということのためにやむなく入園保留となっているケースが含まれております。また、先般、埼玉県所沢市で裁判が話題になっておりますが、岡山市におきましても、保護者が育児休業を取得した場合には、5歳児クラスを除いて原則退園していただくということにしておりまして、保護者の希望とかけ離れた実態となっていると思っております。潜在的保育ニーズは約1,900人と推定されていることに課題があると考えております。

それから放課後児童クラブですが、受け入れ対象が小学校3年生以下から6年生まで拡大をいたしまして、潜在的ニーズも含めて約1,100人分が不足しているという状況でございます。このため、保育ニーズに応じた施設整備、保育士等の人材確保、放課後児童クラブの整備の加速化等が課題であると考えております。

2ページに移らせていただきます。一番上の項目、子育てへの不安や負担感の軽減、ワークライフバランスにつきましても、これも大変重要な課題でございますが、これまでのいろんなデータでご議論いただいておりますので、説明は省略させていただきます。その次の困難を抱える子ども・若者等への支援というところで、二つ目の丸でございます。全国的に子どもの貧困率が上昇傾向にあります。特にひとり親家庭の相対的貧困率は54.6%と半数以上に上っております。それから三つ目の丸ですけれども、虐待を受けた子どもの保護・自立・支援というのを充実させていく必要があると考えておりますが、岡山市では里親等への受託率が全国に比べて低いという状況になっております。

若者を取り巻く状況の項目でございますが、これも以前お示したかとも思いますが、岡山市の刑法犯少年の割合が全国、岡山県に比べて高い状況になっております。

以上のような現状と課題を踏まえまして、3ページの一番最後のところでございますが、政策展開の長期的な考え方としては、一つ目の柱としては「安心して子どもを生み育てられるまちづくり」を目指したいと考えております。このため、結婚、妊娠、出産、子育てを希望する人の望みをかなえるための環境づくりを総合的に進めていく必要があると考えております。積極的な待機児童、放課後児童対策やワークライフバランスの推進等を進めてまいりたいと考えております。また、二つ目の丸ですけれども、家庭、地域、企業、N

P O等と連携しながら、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進める必要があると考えております。それから二つ目の柱でございますが、「子どもが安全で健やかに成長し、若者の自立を支援するまちづくり」を目指したいと考えております。そのためには障害や経済的な事由等で困難を抱える子ども・若者等への支援や児童虐待への総合的な対策を充実していく必要があり、子ども・若者の社会参加を促して、非行防止に向けた取り組み等を充実させて、若者の成長・自立を促す環境づくりを進める必要があると考えております。

それでは、資料3-4の「女性」に移らせていただきます。1ページ目をご覧ください。まず国の動きでございますが、安倍内閣では女性の力を「我が国最大の潜在力」と捉えて、成長戦略の中核に位置付けております。また、女性の活躍推進法が現在国会で審議中でございます。

それから女性の就労と働き方改革の項目でございますが、これについては以前も見ていただきましたが、2ページの下にもM字のカーブのグラフがあります。岡山市はやはり全国同様のM字のカーブということでございます。三つ目の丸のところにありますように、岡山市では管理的職業の従事者の女性の割合が少なく、職場における女性の登用が遅れているというような実態がございます。こうした中で、岡山市役所では「隗より始めよ」ということで、育児休業を昇任に影響させない人事管理ですとか、上司の「育ボス」の養成、それから子育てで休暇取得100%を目指した男性職員の育児参加等の取り組みを本格的に今年度から実施しているところでございます。

今後の課題といたしましては、長時間労働を前提とした労働環境を改めて、多様で柔軟な働き方を導入する必要があり、ライフステージに応じた働き方ということで、特に女性については、子育て期はゆるやかに働いて、子育てが一段落した後の復職期にはフルタイムで働くといったことを可能にするような仕組みづくりが課題ではないかと考えております。さらに岡山市役所自ら率先して推進していくとともに、企業に対して働き掛けていくことも課題だろうと考えております。

2ページをご覧ください。仕事と生活の両立の項目でございますが、一番下の矢印にございますように、育児家事は依然として女性の負担が大きく、パートナーや職場の理解・協力不足が、女性が働き続けることの阻害要因となっております。

次に性別による固定的役割分担意識の項目でございますが、ここも矢印のところに書いておりますように、子ども・子育て支援や育休等の制度整備に加えて、男性も含めた社会全体の意識改革が必要。そのためには自治体単独でなくて、国・自治体・企業・市民といったところが連携して取り組んでいく必要があると考えております。

それから地域における男女共同参画の状況を見ますと、PTA会長・町内会長等の女性の参画は進んでいないということで、今後参画を進めていく効果的な取り組みを検討する必要があると考えております。

以上のようなことを踏まえまして、3ページの最後でございますが、女性の分野につきましては「性別にかかわらず個性や能力を発揮できるまちづくり」を目指していき、男女

共同参画社会を目指す必要があると考えております。

それでは資料3の最後、「市民協働・ESD」に移らせていただきます。まず1ページのところでございますが、国の動向のところを見ていただきますと、人口減少、少子高齢化が急速に進む中で、内閣府が設置した「共助社会づくり懇談会」におきまして、自助、公助、共助のバランスのとれた地域づくりのため、地縁組織の活性化に加えて、NPO法人等の市民団体、それから企業、教育機関等、さまざまな担い手を含めた新たな「つながり」の構築が必要という考え方が示されております。

次に岡山市における地域協働の状況を見ますと、安全・安心ネットワークが全学区・地区に組織されていますが、役員の高齢化、活動の硬直化ということが見られ、NPO法人等の参加が少ない、また若者や壮年層の参加が少ないといった状況になっています。それから、その下のNPO法人等市民活動団体及び市民協働の仕組みというところでございますが、岡山市は人口当たりで見ますとNPO法人数が政令市の中で6番目に多いということがございます。その反面、三つ目の丸ですけれども、協働のしやすさといった環境面では政令市20市の中で16番目と遅れています。こうした中で、丸の最後のところですが、岡山市では昨年度から協働を推進する条例の見直しに着手し、また協働推進モデル事業の提案制度ですとか、ESD・市民協働推進センターの設置など、協働推進施策の拡充に努めているところでございます。今後、市民協働、官民協働のためのさまざまな仕組みづくりが必要になってくると考えております。

2ページでございますが、ESDということで、まず岡山地域のESDを取り巻く現状でございますが、一つ目の丸にありますように、昨年「ESDに関するユネスコ世界会議」が岡山市で開催されまして、公民館を拠点とする「ESD岡山モデル」が世界から高い評価を得ました。また、二つ目の丸ですが、岡山市はユネスコから、2015年以降のESDを推進するための地域・地方での取り組みの促進分野におけるキーパートナーに認定されております。三つ目の丸ですが、岡山ESD推進協議会では、新たに「岡山ESDプロジェクト2015-2019基本構想」を策定して、取り組みを進めているところでございます。一方、ESDの活動と人材という項目でございますが、ESD活動の活動エリアや活動分野が限定的であるということや、ESDの質の向上を拡大させるためにも人材の育成が課題というふうと考えております。

以上のような状況を踏まえまして、3ページでございます。「市民活動の活性化と参加と協働によるまちづくり」を進めてまいりたいと考えております。そのために一つ目といたしまして「地域の課題は地域で解決する協働の仕組みづくり」ということで、NPO法人とか若者、企業、大学等、多様な主体が地域活動に参画できるような仕組みづくりが必要と考えております。それから二つ目の丸ですが、「NPOなどの多様な主体が協働して「公共」を担うまちづくり」ということでございます。NPO法人の活動促進とともに、市と多様な主体が一緒になって課題解決を考え、知恵を出し合う場を設けたい。市の施策を市民協働の視点から点検して、協働事業を拡充することも考えられるのではないかとこの

と書いてございます。それから三つ目の丸ですが、「将来世代のために責任ある決定・行動ができる人づくり」ということで、子どもたちを対象に市内全学校でE S Dを推進するとか、それから中学校区の単位でE S Dコーディネーターの方を核にして、学校・公民館・企業等が連携をして、持続可能な地域コミュニティづくりを進めるといったようなことが必要ではないかと考えております。

資料4として、これまで審議会で委員の皆さまからいただいたご意見を分野別にまとめたものを参考にお配りさせていただいております。これについては説明を省略させていただきます。説明は以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。事務局からの説明が終わりましたので、それでは政策分野別の現状と課題・長期的な方向性につきまして、これから皆さんのご意見をいただきたいと思っております。ただいまの資料をもとに、各政策分野におきまして、改めて重点的に取り組むべき課題、あるいは長期的な方向性に盛り込むべき考え方等につきまして、委員の皆さんにご議論いただきたいと思っております。五つの分野を順番に沿ってまいりたいと思っておりますが、最初の「健康・医療・福祉」についてのご意見をいただきたいと思っております。先ほど資料にございましたけれども、これまで議論の中で意見を述べられたこと等を参考にいたしまして、最初に、健康寿命等について、いろいろお話のあった岡本委員さんからご意見をいただきたいと思っております。

○岡本委員 はい。おまとめ、ありがとうございました。コンパクトにまとめられていると思えました。国の動向のところ、社会保障制度改革国民会議の報告書の内容が書かれていたのですが、この6月に、厚生労働大臣が諮問する「保健医療2035提言書」なるものが発表されまして、20年後のビジョンを示す提言が出たところです。「2035年、日本は健康先進国へ」というキャッチフレーズで示されていますが、そういった内容、そこで提言されている内容も少し盛り込んだ、20年後を先んじて取り組むことも入れているとはどうかと考えます。その2035提言書の中には、保健医療のパラダイムシフト、考え方の根本的な転換ということがいくつか挙がっていきまして、インプット中心から患者にとっての価値中心へ。価値という言葉がキーワードというのと、さらに行政による規制から当事者による規律へということで、当事者中心ということもキーワードと思えました。

長期的な考え方というところを見せていただきますと、いきいきと生活できるとか、ともに支え合うとか、そういったことにつながるキーワードが入っていると思えました。この2035の中で三つビジョンが示されていて、そのビジョンの一つに「主体的選択を社会で支える」、ライフデザインを作っていくというビジョンが示されています。市の局案では、「生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくり」ですとか、二番目の「豊富な医療・介護資源を活かした安心の暮らしづくり」ということを挙げていただいておりますが、その中に主体的選択、自分で選ぶといったような概念が入ってもいいと思っております。また、

その20年後を考えますと、非常に格差のある社会になると想像されているところでは、格差をどのように是正するとか、格差に対してどういうふうに対応するかといった字句か、考え方も入っていくといいと思って読ませていただきました。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。ご意見をいただいておりますが、長期的な考え方の中に盛り込まれてはいますが、二番の「豊富な医療・介護資源を活かした安心の暮らしづくり」の中に、丸括弧ですけども、在宅医療・介護日本一のまち岡山市、日本一の岡山市を目指すというような文言、表現がございます。大変結構なことだと思うんです。このようなポテンシャルが十分岡山にはあるというご意見をいただいたことのある浜田委員さん、ご専門の立場からちょっとご意見を。

○浜田委員 ありがとうございます。原案、非常によくまとめられていて妥当だというふうに考えております。特に評価したいのは、最後の丸のところで、「ともに生き、ともに支え合う、安心の地域社会づくり」ということで、最近やはりどうしても高齢者の問題というふうになるわけですが、ここでは高齢者だけではなくて障害者とか、あるいはその家族とか、あるいは生活困窮者とか、そういう方々の自立を社会全体で支えようと、非常に新しい考え方がですね、盛り込まれておまして、これは非常に重要な視点ではないかと感じました。

あと二点ほど述べますと、一点はこれから、最初の国の動向のところにも書いてありますが、地域包括ケアシステムをどうやって構築していくかということになるわけですが、この地域包括ケアというのはちょっと分かりにくいと言いますか、具体的に何なのかということがですね、ちょっと分かりにくいと思われるんですけど、岡本先生もお話になりましたけど、在宅医療とか在宅介護とかも含めて、要するに住民の方々の生活の質を上げていく。介護を必要とするようになって、生活の質というものを尊重していくという考え方でございます。実は市町村ごとにかなり取り組みに差があると考えていまして、岡山市は、例えば介護特区でありますとか、あるいは多職種での集会をいろんなところで展開したり、それから市役所の方が出前講座で地域に出向いたり、非常に私はよくやっておられるのではないかと考えていまして、ただやはり70万人の市の中で全域に地域包括ケアを普及させていくというのは非常に難しいことだと思いますので、引き続き市、それから地域包括支援センター、それと住民の方も巻き込んだような、そういう動きを、引き続き続けていただければなと考えております。

それからもう一点はですね、市長さんもおっしゃっておられましたけど、やはり岡山市は医療も介護も非常に資源が豊かであるということはみんな認めているわけですが、それが十分活用されているかどうかという問題がありまして、実は昨日も県の地域医療ビジョンという議論がありまして、その中で岡山市周辺の二次医療圏において急性期病床が2025年に向かって多すぎると、4割近く多いんじゃないかと。一方、リハビリテーショ

ンとかの病床はかなり足りないというような試算が出されまして、それは我々の実感とも重なるところがありますので、そういうものをどうやってこれから活用するかということについて、おそらく岡山県と岡山市が中心になると思いますが、我々関係者も入っていますので、あるいは皆さん方のご意見も聞きながら、知恵を出し合っていないといけないのかと、考えております。以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。「健康・医療・福祉」の分野につきまして、ほかの委員さんからも、どうぞご意見を、ご自由に述べていただきたいと思います。

○片山委員 これは全体的に言えることかも知れませんが、感じたことを申し上げますと、制度とかは非常に行き届いてよいものができているとしても、制度と制度を結ぶ人を育てることがとても大切ではないかと思えます。制度を運用したりするのもみんな人です。例えば福祉に関しましても、福祉のいろんなメニューがあると思うんですが、そういったメニューとメニューを結んでいく、コーディネートする人、介護ケアマネージャーとか、生活保護のソーシャルワーカーとか、それから最近は子どものソーシャルワーカーという方もいらっしゃるんですけども、そういう方たちを実際に育てるといいますか、例えば虐待なんかの場合も、分かっている人がいて、相談所に持っていっても動かないというようなことがよくあるということを新聞で読みまして、それなら間に入って、個人的といえますか、個別の件でも対応できるような、そういう人を育てるといって、人材育成が必要ではないかなと思います。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ほかにご意見はいかがですか。どうぞ。

○阿部典子委員 シンプルに分かりやすくまとめられているなと思えました。制度と制度を結ぶ人、コーディネーターの役割というのがとても大事というのは、私も本当にそうだなと聞かせていただきました。加えて、これから生きがいつくりや、健康寿命を延ばすという意味で、高齢者が自分たちで支え合うというような地域をつくる視点というのが、この中でとても大事になってくるのではないかなと思います。これから介護の分野だけでは追いつかなくなって、健康寿命をちょっとでも延ばす、生きがいを少しでもつくる、地域の役割を担える人を増やしていくという意味でも、日常生活総合支援事業等、地域での取り組み、地域を育てるといって一つには重要になってくるのではないかと思います。健幸ポイントプロジェクトというのがいま進んでいますけども、それをもっともっと連携させたり、連動させたりするようなことの工夫もしていただけるといいなと思います。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。ほかに、どなたか。

○清板委員 先ほど、片山先生がおっしゃいましたが、例えば虐待の支援などで児童相談所や福祉事務所に連絡してもその後の具体的な、虐待が起きている母親のところに出向く人が誰かとか、あるいは出向いたとしても、その後の日常を支えるのは誰かということになりますと、本当にとっても手薄な状態だと思います。ついつい制度的なことで説明をして、その繰り返しで対応が終わってしまうということが起きていると思います。その問題が、ちょうどこの3の5の市民協働の問題の部分にはまっていってしまうかと思うのです。市民協働の問題のところでは、E S Dが大変大きな領域を占めて話題になっていますが、従来の愛育委員や、児童相談員などの方たちが高齢化しているので、町内会で女性がもっと活躍すべきだというような議論もさきほどご説明にありましたが、これとつながっていく問題だと思います。虐待問題などでは地域の人々の日常に目と手が届く助け手がとても大切ですので、そんな新しい仕組みづくりを、これはやはり行政が音頭をとって提案していくということが必要なんじゃないかなと思います。特に福祉保健の領域では大変必要かなと思います。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

○梶谷委員 政策展開、長期的な考え方なので、非常にはっきりとした、いい展開案なのかなという感じがするのですが、具体的なものがもう一つ見えてこないということを少し感じています。

医療・介護福祉の資源を活かすためには、逆に言うとどういうふうなところが関わってこないといけないのか、もう少し明示をしてみてもどうか。先ほどの県の医療ビジョンの検討が進んでいますという話がありましたが、これはおそらく企業経営者はほとんど知らないです。おそらく健康・福祉というところに、どういうふうな制度をやって、先ほどの愛育委員がある、こういうものがありますというのが、本当は関わる経済人からすると、ほとんど関心がないというか、知らないというのが大部分の方ではないのかなと。ただ、個々の人間となると関係してくるのですけども、そういった意味で言うと、医療介護というのは、ある意味でそれぞれ個別に、それぞれの事業体がどうやればいいのかということをやっていますけども、本当の地域としての医療・介護資源を活かすとすると、我々企業者も、一事業者としての立場と合わせて、社会全体としてどうあるべきかという、全体最適と部分最適をどこでどう整合させていくのかという部分の議論の場というのが必要になってくるのではないのかなと。そういった部分が政策展開の中にないと、実際には中々成果が生まれないのではないのかなと少し感じています。

特に先ほどもありました、急性期と慢性期の病床の、じゃどこがどこを減らしてどうするのかという調整を個別にやってくださいというのか、行政も関わりながら、市民も関わりながら、岡山市全体としてどうしていこうかというところの統制をとっていくのかというところが、少しこういう中に入ってくるといいのかなと。そのへんが在宅医療だとか、

急性期、在宅医療が増えればまた病床のあり方も変わってくると思います。そのへんをどう進めるかというのが入るともう少し、何をやらないといけないかというのが見えてくると思います。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。梶谷委員さんはもう少し、抽象的じゃなくて個別、具体的な部分にも踏み込んでどうかというご意見なんでしょう。正直言って私もそれは感じましたけれども、こういうふうに皆さんから出た素晴らしい、多様な意見を集約するというようなことになりますと、どうしても表現が、なあなあといったらおかしいんですけども、そうなりがちだし、長期的な展望でありますので、中々具体策、あるいは数値というものに触れていきにくいというような事情もあるのかなというふうに私は思いましたけど、しかし、全体的に、岡山、岡山市という固有名詞がなければ、どこの町でも同じような表現になったのではちょっとさびしい気がいたしますから、やはり岡山らしさというのを出していけないといけないです。政令指定都市として飛躍を続ける岡山市の基本政策でありますから、できるだけ踏み込んだビジョンに、これからしていただきたいというのは私も思っております。ちょっと途中で意見を述べさせていただいてしまいましたけれども、すみません、ほかに健康・医療・福祉については、よろしゅうございますか。

○片山委員 長期というのは何年と考えれば。

○越宗会長 10年です。

○片山委員 10年ですか。中長期といった場合、中は。

○越宗会長 中は5年です。

○片山委員 5年。分かりました。すみません。

○越宗会長 それではすみません、時間の関係もありますので、次「教育」の分野について進めたいと思います。これはまた同じようにご専門の立場から、高旗委員さん、お願いいたします。

○高旗委員 ありがとうございます。失礼いたします。我々がしゃべりましたことを大変丁寧にまとめていただいて、なおかつ国が動こうとしている動向や岡山市の課題等、本当に丁寧に取りまとめていただいて、ありがたいと思っています。

これを拝見して、特に最後のページで、政策展開の長期的な考え方のところを三つに整理をしていただいています。一つがおそらく岡山型一貫教育というキーワードにしな

小中、それから高校も含めて、幼小中高の、縦の学校種の連携、とりわけそれを中学校区の単位で一貫した学びを実現するということを進めていく。それから二つ目には「横糸」ということになりましようけれども、学校・家庭・地域社会の連携を「地域協働学校」というキーワードで、編み上げていくという、この二つを明確に示しておられて、これは今まで取り組んでおられることの正常進化を、今後10年間もきちっとやっていかれることの宣言であると理解をいたしました。三つ目の「生涯にわたる豊かな学び」ということも、「教育」は「学校」に限らないわけですので、どちらかといえば学校というものを一つの結節点にしながら、その前後がどう豊かになるということを考えておられるわけですので、これで大変よろしいのではないかと思います。

ただ、一点私がぜひお願いしたいことは、政策展開の長期的なところに、どこまで具体的なことを入れていくことをお許しいただけるのかどうか分かりませんが、一つは国の動向に鑑みられた時に、教職員の資質の問題について、何らか四番目が立てられないだろうかと思えます。どういうことかと申しますと、直近で言いますれば、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会による「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の「中間まとめ(案)」が平成27年7月に出ています。その中で言われておりますことは、教職に就いていく人材の育成協議会であるとか、そのための人材育成指標というものを、行政と大学等が一体になり、構築をしていきながら、より質の高い教員にしていくということを求められております。加えまして、皆さんもよくご承知だと思いますが、つい先ごろ報道等でも出てまいりましたが、学校現場における業務改善のガイドラインというものが、100ページを超える文書として、参考事例等も含めながら出てきたわけです。

そういう状況を鑑みますと、教育をめぐる議論の核には、一にも二にも三にも教職員の資質という問題が大きくなるかと思えます。なおかつ授業力という問題も含めて、問題行動等の分析の中に、教員の授業力ということやその授業力を確保した学級集団づくりということも含めていただいている。これは非常にありがたいことだと思うんですけども、そのことが、何らか今後10年の、若い先生が大量に増え、その大量に増えていく若い先生の資質向上というものを、学校現場での勤務を軸にしていきながら、進めていかなければならない時代と社会になってですね、そこに明確な長期的展開の中心においていただけるような、そういった言葉が出していただけないかと思っております。ある意味そこに盛り込むということですね。前回の教育のことを議論した際にも、大森市長様から「教員の業務の多忙さについて、本当に実感を持っている」というお話をいただきまして、私もそのことを伺い、市長さんが「何とかしなきゃいけない」とおっしゃってくださったことは大変ありがたく、うれしく思っておりました。ぜひともそうしたものを一つの柱として出していただけるとありがたいなと思っております。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。ど

うぞ。

○塩見委員 どうもありがとうございます。良いようにまとめているんですが、私として一つ、年々障害、精神的な障害もそうですが、そういう障害を持った児童・生徒さんが増えていく状況があると聞いておりまして、特別支援の教育について、この中で一つ入れていただけたらと思っております。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ほかのご意見ございませんでしょうか。はい、どうぞ。

○梶谷委員 素人的な考え方なんですが、岡山型一貫教育の推進という言葉がありますが、これってほとんど何のことか分からない。おそらく担当者は分かるのか分かりませんが、岡山型一貫教育、何を一貫教育と言うのか。そのへんがもう少し明確に表現されたほうが、何をやるのかというのが分かるような感じがいたしました。

○越宗会長 同感です。専門外ですから、特にそうなんですけど、岡山型一貫教育という、本当の意味を十分に教えていただければありがたいですけど。

○山脇教育長 ありがとうございます。教育長の山脇でございます。先ほどから出ている岡山型一貫教育。これは、今の小学校、中学校の教育を9年間見通した子ども像を考えながら、9年間を見通したカリキュラムをつくるべきではないかということが国のほうから出てきているわけでありまして、岡山市としては今の6・3制というのは崩さない中でも、いま言われました9年間のカリキュラムという、その中には小学校の教員、中学校の教員の意識改革ということも、そこには含んでいるわけです。やはり小学校は小学校、中学校は中学校という分割的なものが、これまでの中で、長い歴史の中でもありますものから、それだけではなくてやはり子どもを中心に考えていけば、当然教員は小学校であろうが中学校であろうが、お互いをよく理解し合いながら、子どもたちを育てていくことが必要であろうという考えの中で、いま岡山型一貫教育、小中をしっかりとつないでいく教育というのをやっていこうではないかということの一つを考えています。

もう一つは小学校から中学校に行く時にですね、子どもたちが大きな段差を感じている。例えば指導体系が変わってくる。小学校は学級担任制、中学校は教科担任制で教科ごとに分かれている。さらに、そのことによってもありますけれども、不登校とかがぐっと増えてくる。やはり子どもたちに戸惑いもある。小から中への段差というものをいかに小さくしていくか。しかしながら必要な段差はつくっておく。自分は小学校を卒業して中学生になったんだという意識付けができるような段差というのはしっかりあるということは思っておりますので。そのことを考えながら、通した教育ということを考えてみたいというこ

とで、この岡山型一貫教育という名前を使っております。

○越宗会長 岡山らしさと先ほど申しましたけど、そういう意味では、全国にもあまり例のないような岡山型の教育というのをぜひ実践をしていただきたいですし、教員を育てていくというか、伸ばしていくという要素も大事だと思いますし、ぜひそれはできるだけ適切な具体論を展開していただきたいなと思います。はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

○泉副会長 2年前なんですけども、経済同友会で、県立・私立の校長先生方9人くらいと、意見交換会をやったんですけどね、梶谷委員も出席されたんですけども、その時に、先生が忙しいので教育に専心できないというふうな意見が非常に多く出されました。それを解決する方法とすると、先生方を教育に可能な限り専心できるような体制をつくられたらどうかということを同友会として提言したことがございます。岡山市におかれましても、先生方の適性が大切だ、でも忙しいですよ、なんですけども、こんなことがあるから、という分析をぜひ肉薄していただければなと思いました。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

○清板委員 岡山市で問題として取り上げられている子どもたちの状況の中には、不登校や、問題行動を起こす子どもが多いという点、それから学力の問題点、具体的には、子どもたちが問題に取り組むことができない、そういった問題が取り上げられています。これは岡山だからというわけではないのかもしれないのですが、こうした問題は学校現場の先生の教育の在り方であるとか、お家に帰ってからの家族の勉強についてのサポートの在り方であるとかに対応の視点が行きがちです。しかし、そういった問題だけではなくて、子どもたちが育っていくときのもっと基本的な配慮点、すなわち、見えないものに心を馳すことができる、というふうな基本的な想像力であるとか、困難な問題に出合った時にそれに取り組むというような問題解決能力や自発性とか、そういった人間の育ちの基盤にあるべきものが脆弱化しているのではないかと、という点に視点を向けなくてはならないと思います。これらが不十分だと人間関係の中でもすぐに切れてしまうし、それからちょっと困難な勉強の問題に対してもやめてしまうしということが起きるのではないかと考えます。

やはり幼児期の教育、あるいは幼児期の教育以前の養育がとても大切なことだと思います。それは、乳児期からの母との関係から始まるものですので、もし岡山型一貫教育と言うのなら、幼児期も視野に入れるか、教育への基本的な人間的な力をつくっていく部分にも意識を十分注いだそのような一貫教育を視野に入れていったらどうかと考えます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。大体出ましたでしょうか。それでは三番目の

「子育て・若者」分野でございます。これはいまご意見をいただいたばかりですが、ご専門の立場から清板委員さん、お願いいたします。

○清板委員 ここでは安心して子どもが育てられるまちづくり。結局安心して結婚ができて、安心して子どもを産もうかと思えるというところから始まる問題かと思いました。拝見しますと、どちらかというところ子どもを持った人が感じる子育ての困難な状況をどうサポートしていくかというところに重心が置かれているよう読み取ることができます。しかし、今日のような状況を見ますと、若者たちのまずもって考えねばならないと思っているのは、まずはとにかく、就職の戦線で負け組にならないためには、結婚や子育て、子どもを持ったときにどうなるかなどのことを考えている場合ではないというふうに思ってしまう若者が大勢を占めているという、若者の精神風土を意識しておかねばならないところも一つの問題だと思えます。結婚して子どもを持つ人が仕事と子育てが両立しないために仕事を辞めて、家庭に入ってしまう、これをどうするかという論点に重心が置かれていますが、それだけでなく、そのような状況を目前にしている、そういう若者が、すなわち、これから結婚もするし、仕事も選び、していこうとしている、そういう若者が、結婚して子どもを持つことは、そんなに悪くはない、リスクなイメージばかりがあるものではないんだ、周りから守られていて、少々のことがあっても楽しくやっていけるんだ、こんな風に思わせていく、そういう仕掛けというか、心理的な仕掛けというんでしょうか、そういったものも付け加わるといいのではないかなと思いました。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。以前ご意見を述べられた中でですね、ワークライフバランスを目指した取り組みの推進というのが一番の中にありますけども、これは行政だけに任せるんじゃなくて、企業も大いに協力しなきゃいけないということを強調された泉さん、いかがでございますか。

○泉副会長 これまで女性だけのプロジェクトチームを作って、次の女性問題とダイバーシティの問題に関して、銀行ではこんなことやっていますよとご披露申し上げました。その後、最近発表したんですけども、これは企業トップの問題だと。なので、普通ですというんなジャンルの仕事をする場合に、担当役員がお前が担当、お前が担当だとやるんですけど、このダイバーシティの問題と女性の問題は頭取が担当です。解決しました。それくらい気合が入らないとまずい問題ですね。制度作っておしまいでは絶対どうにもならないので、推進力は誰が持っているか、企業トップしか持っていないんです。それが一般的だと思います。ぜひ行政のほうも、民間に対して行政からいらないお世話だと思われるんじゃないかと思われる節があるかもしれませんけど、そうじゃなくてどんどん繰り返し、企業トップの問題だということをアピールしていただかないと、この問題は絶対前に行かないと思います。

それから少子化の問題がありますけども、経済界からみるといくらなんでも人口減少は

経済的にどうにもなりませんから、何しろ少子化を止めないといけない。企業サイドからいっても絶対に止めないといけないわけです。単純に計算すると分かりやすいんですけども、いまの結婚率だとか結婚されて子どもさんをつくられる割合から逆算して、人口が減らないようにするためにはですね、単純な計算なんですけども、結婚なさって子どもさんがおられる方が90%の人は2人産んでもらわないと困る、10%の人は3人以上産んでもらわないと人口は減ると、単純計算ではそうなります。ただ、データでも最近結婚率がどんどん落ちていきますから、もっともっと違う割合になりますけどね。そんなことをですね、行政もアピールはされているけれども、繰り返し繰り返しなさないといけないのではないかと思います。私の回答です。

○越宗会長 杉山委員さん、何かありませんか。

○杉山委員 ちょっとお休みをしていたので、十分にキャッチアップしていないところがあるんですけど、一つ質問させていただきたいと思います。この資料3の3の3ページのチャートがあります。保育を必要とする子ども、小学校就学前の人数と保育の確保量の見込みというところなんですけど、左側がニーズで、右側が確保量ということなんだろうと思います。右側の放課後児童クラブのほうは5年後にバランスをとるという政策だと思うんですけども、左側の保育を必要とする子どもの人数と比べ保育の確保量の見込みが必要数の倍以上になるのではないかと。5年後に2,000くらいインバランスが必要だとみているのですか。

○田中岡山っ子育成局長 岡山っ子育成局長です。いまご指摘された部分でございますけども、これは恐縮です。ちょっと注釈等が不足している部分もございますが、現在岡山市では5年を目途に、認定こども園を30地区でということからスタートしまして、併せて保育園等を民営化するとか、統廃合するとか、そういうことを進めておるところでございます。正直この31年はいまご指摘があったような形で、あまりニーズと確保量に差がないようにという思いは持っているんですけども、いま現在どこが統廃合が進むかということが未知数のところがややあるもので、正直なところで、この数字を出させていただいているということでご理解いただければと思います。以上です。

○杉山委員 ひと言言わせていただくと、岡山市の人口を増やすためにはすごく大切なことで、5年後にこんな数字をつくるということよりは、この1年、2年をどうするかということが非常に大切だと考えます。確か以前のデータで子どもが0歳から6歳くらいの人たちの転出の比率が確か岡山は高かったと思うので、やはりここに集中投資をするということが本来のあるべき政策ではないかというふうに私は思います。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ほかに特にございませんか。はい、どうぞ。

○片山委員 今日、やっています「健康・医療・福祉」、「子育て・若者」、「女性」、「市民協働」、これ、どれも全部リンクしていて、一つのことを考えると全部につながってくることになると思います。ワークライフバランスという言葉が何回かでてきたんですけども、この中に「ケア」という言葉を入れてはいかがでしょうかと思いますのが、子育ても一つのケアですし、介護もケアですし、というのでワークライフケアバランスというのはいかがでしょうかと思います。以上です。

○越宗会長 はい、ご意見ありがとうございました。それでは。はい。

○塩見委員 すみません。若者の考え方の中に、魅力ある大学を卒業して、そして就職して、岡山に定住していただくという視点が、ちょっと抜けているのかなという感じがしております、やはりそこから子どもを産み育てるというふうなことも始まりますので、やはり若い方に岡山に定住していただくことが非常に大事な視点ではないかと思っています。

○越宗会長 はい。それでは、どうぞ。

○杉山委員 具体的なデータ、いま手元に持ってきていないんですけども、広島県と岡山県を比べた場合に、広島の高校生たちが広島にある大学に行く率と、岡山の高校生たちが岡山の大学に行く率でみると、はるかに広島の方が高いんですね。大学と県とか市とかが協力をして、教育の地産地消を推進すべきではないかと考えます。多分岡山にある大学はそんなに悪い大学ではないと思います。大学と行政が中心となり教育の地産地消を推進するという事は非常に大切なことだというふうに思います。少なくともたくさんの岡山の子供たち、一生懸命育てた人たちが関西とか東京に取られていますので、そのうちの10%でも岡山に残ると地元就職する人も増えるでしょうし、そういう地道な努力をぜひ考えてほしいなというふうに思います。

○越宗会長 どうぞ。

○清板委員 この青年について「子育て・若者」となっているんですが、若者に関しては、一番最後のところに「若者の社会参加を促していくとともに、若者の抱える問題等への対応、非行防止等に取り組む」となっておりまして、若者なのか、思春期の子なのか少し分からない。若者って一体何だ、誰を若者と言っているんだろうかというような感じがいたします。若者は不安定な思春期を過ごして非行等に走らない若者でもありますし、そしてやがてちゃんとした職業に就くことができる若者でもありますし、そしていずれ子どもを

産むかもしれない若者でもありますし、そういう若者の現状に立脚した表現というか、視点というかを、少し分かりやすくしたほうがいいのではないかというふうに感じています。

○越宗会長 はい。ありがとうございました。はい、どうぞ。

○梶谷委員 つい最近、話を聞いた中で、我々どうしても子育てというのが、仕事と子育てを分けて保育をしなければいけないというような感覚にとらわれている。仕事場で保育ができるような環境をつくるということも、企業として取り組むことがひょっとしたらできるのかなど、この前話を聞いて気づかされたことなんですね。今まで仕事のところに子どもを連れてくるんじゃなくて、子どもを育てるのは職場以外のところだよということで、保育所をつくったりとかしていたんですけど、それをすることは本当に大事な、母親と触れていなきゃいけない時を別のところで育てなさいと。特に1歳までは育児休業ありますけれど、3歳、4歳とか、あまり長く職場を離れると仕事の復帰が不安だから、すぐに子どもを保育所に預けて育てることばかり考えていたんですけど、親が働いている場所で仕事をしている横で、子育てができる環境みたいなものをもっと広げていこうみたいなことをやっていくようなことも、あまりそういうことをやられていないんで、そんな話をひょっとして岡山からやるとか面白いのかなと思っていて、そのへんが先ほど言った幼児期からの子育てと、そのことが子どもの頃から親の仕事、社会とのつながりを感じながら過ごしていく。そういうことにつながっていくようなことを思い切って入れてみてもいいのかなと、ふと思いました。

○越宗会長 小山さん。

○小山委員 はい。初めて発言させていただきます。先程の教育、子どもの問題、女性の問題等について非常に良く作成されています。しかし残念ながらこれから5年後、10年後、20年後において、人口が減少する、高齢化が進むといった前提のもとに全部が企画されているように思います。歯止めをするといったところが全然ありません。先程、杉山委員からお話がありましたからこれから10年後には高齢化が進み、少子化が進んでいくことにどういった施策をうったらよいかといったことの策定が多く出てきています。先程も言ったように、たとえば広島と岡山の話が出ましたが、岡山にもこんなにいい学校があるじゃないかということ、そのへんをしっかりと地域の人に認識していただかないといけない、岡山県民にも認識していただき、地域の良さの中から心の活性化をもっと活かすような施策ができないのかなと思います。

確かにいろんな問題があるんですが、子育ての問題は、学校があり家庭があり地域があると、良く言われますが、本当に振り返ってみたら今の子供を持つ、30代、40代のお父さん、お母さん方の子どもに対して家庭での指導育成はどのなのとされています。しかし、そのお父さん、お母さんを育てたのは、私たちの世代ですね。はっきり言って、私た

ちに責任があるんです。当時私たちは高度成長期で、子どもに対して何かあればお小遣いでその場を逃げてきた。そういう教育をしてきたんです。その時代に育った子どもさんたちが、今のお父さんお母さん方なんです。この問題は、基本的にどのようにこれから導いて行くのかといったことも考える必要があると思います。

きちんと策定されているが、これから未来に向けてこんな良いことがあるんじゃないのという事にテーマを置かずに策定されていることが気になります。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。それではですね、はい、どうぞ。

○岡本委員 これを読ませていただいて、10年後を考えた時に、コミュニケーション形態が変わっているから、心の育まれ方が変容している時代になっていくと思われるので、一番が「安心して子どもが生み育てられるまちづくり」となっているのが、安心してというところが、もう少し何か具体的な、例えば人と人との間でとか、触れ合いを通してとか、そういう、その先の課題が深刻だろうから、こういうふうにしたいというところが、もう少し具体的に表れるような内容になったらいいと思いました。

まちづくりって、両方まちづくりという表現になっているのですけれども、まちづくりってなんだろうと思う。ちょっと困ったという人と、すごい困ったという人と、いろいろな段階、ニーズがあると思うんです。どういう層でも手が差し伸べられる重層的な仕組みづくりがやはり大事だと思うんですね。だからこのまちづくりとひと一言で短く、端的に言うところこういうふうになるのかもしれないけど、何かもう少しセーフティネットが重層的につくられているまちになっていることがイメージできるような表現になるといいと思います。

○越宗会長 なるほど。何ていうんですか、少しうまくまとめようとするとうと焦点がぼやけたということになって、やはりもう少し踏み込んだ表現とか、そういうのを考慮すべきではないかということであろうと思います。事務局のほうでもこのことに大いに留意をしていただきたいと思います。それじゃ、次の「女性」はですね、いまの「子育て・若者」と重なる分野でございまして、いろいろご意見あるんですけれども、ここに女性では政策展開の考え方で、男女共同参画社会を、多様で柔軟な生き方を推進とか目指すというふうな文言にまとめられているんですが、そうですね、塩見委員さんからご意見をいただきましょうか。

○塩見委員 はい、ありがとうございます。女性の項目が「性別にかかわらず、個性や能力を發揮できるまちづくり」で、男女共同参画社会を目指すという一括りになっているのですけれども、やはり女性の管理職というのが非常に少ない岡山です。岡山市のほうは率先していま推進していらっしゃるんですけれども、これはやはりトップの考え方で、女性

のいわゆる管理職への登用というのできるというふうに私は考えていますので、やはり女性の職業生活におきまして管理職を目指すというような、トップの意識改革というふうなこともこの中に盛り込み、入れてほしいと思っております。

○越宗会長 岡山の企業でも、泉副会長さんの中国銀行さん、私どもの新聞社もそうですし、おそらく梶谷さんのところもそうでしょう。有能な女性社員の管理職登用にずいぶん心掛けていらっしゃる。そういう管理職が少ないというのでは岡本委員さんが前、述べられたんですよね、確か。何かご意見ありますか、そのあたり。ニュアンスがもっと政策展開の中にほしいとか、そういうことありますか、特にありませんか。

○岡本委員 すみません、何も考えていなかったので申し訳ありません。ここ一個だけかって、なんか少ないなと思いました。

○越宗会長 小松委員さん、どうぞ。

○小松委員 これまでは結構力が入っていたんですけども、何で逆に言うと遠慮されたのかなという、女性のまちづくり推進課があったりするわりには、さらっと書いて。そのへんの事情が聞きたいなと思いますし、ひょっとするとそれまでのところと子育てのところとか、つながるところはいっぱいあると思うんです。あるんだけども、やはり女性のパートもあるよと挙げた以上は、やはり重なってもいいし、似たようなことになってもいいんですけど、違う角度からやはり書くべきじゃなかったかなということで、ちょっとそこのところが残念だなという気がいたします。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。どうぞ。

○片山委員 数字を出すのは、ちょっとまずいのかなとも思ったんですけども、やはり目標数値といいますか、そういうものをはっきり出して、それに向かっていくといったほうが具体的ではないかなと思います。

○越宗会長 ま、そうですね。

○片山委員 杉山先生のほうが、お詳しい。

○杉山委員 まったく同じことを考えていまして、僕は人が子どもを何人産むかという基本的人権を侵害するようなところは賛成できないということを申し上げましたが、これこそ数値目標を入れるべきで、数値目標が入らないことには何も実効性につながりません。

ヨーロッパとかアメリカでは、何パーセントの女性が管理職に就くのかという数値目標を設定したので女性の社会進出が進んだのです。だから日本の他の市に先駆けて目標値をつくれればいいんです。どういう形で基本政策の中に入れるかは考える必要があるかも知れませんが、ちょっと議論があるかも知れないですけども、例えば10年後には、男女共同で書いてあるんですから、50、50を目指しますということは当然入れていって構わないので、これこそ数値目標を入れるべきだと思います。

○越宗会長 確かに課題では実際の数値がふんだんに織り込まれておりますよ。長期的な考え方ということではあるんですけども、できるだけテーマによっては具体策に踏み込んで、数値目標を入れるということを考えたほうがいいのかと、私も感じております。そのほかありますか。はい、どうぞ。

○高旗委員 ありがとうございます。先ほど小山委員さんがおっしゃられましたように、教育の問題、子育ての問題、女性の問題というのは全てつながりがあって、特にそれを区別化ということは難しいのですが、とりわけこの「女性」のところではいいますと、「働き方をどうするか」、あるいは「女性の管理職をどうするか」、「男女共同参画」ということなど、働くことが中心になっています。しかし、ぜひ押さえていただきたいことは、ひとり親でおられる女性の、一番困難な状況ということについて、それをどうこの10年の間で見据えていくかということだろうと思うんです。「子育て」のところの2ページの中程に、全国的な動向としてのひとり親家庭のトータルの貧困率の問題を挙げておられますけれども、前回この議論があった際に私が申し上げたのは、これが非常に稼働労働を前提とした社会構造の問題で、とりわけ「ひとり親」さんのなかでも女性で子育てを一生懸命やっておられる方のシングルマザーの問題が非常に大きい、というお話をしたと思います。そのことに関連して、岡山市としてどのようなデータを把握しておられるのかということも気になるところです。もちろん、そのようなデータをこの場に出す、出さないについては慎重であるべきだろうと思いますが、いずれにしてもこの女性の問題についての箇所がちょっと薄いような気がしておりますので、何らかの形でそうした困難に関することについて、市としてどうこの10年、取り組みをしていくかについて加えていただけるとありがたいと思います。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。いろいろまだご意見があるかもしれませんが、ちょっと私の進行がまずく大分時間が経過しております、最後ですね、「市民協働・ESD」の分野について、ご意見をいただきたいと思います。まず市民協働ということで、阿部委員さん。

○阿部典子委員 はい、先ほどから皆さんおっしゃっているとおり、本当に今回のテーマ

はどれもつながっていくなと思っっているんですけど、最初にご説明をいただいた市民のワークショップで、新聞に載せられているのを見させていただきましたが、岡山東商業高校の3年生の18歳の方が参加されて「市の将来について考えることで、自分が市民の一員であると実感したと、私たちの意見を計画に盛り込んでほしい」というようなことを話されているのですけれど、まさしくこの市民の一員であることを実感できるような、場づくりであるとか、取り組みであるとか、そういうことがすごく大事になってくるんだろうなと思っっています。

例えば岡山で生まれ育った子が岡山の大学に行きたくなる、岡山に住みたくなる、岡山で子どもを育てたくなる。岡山を好きということがいいことなんだ、格好いいことなんだということと言えるような取り組みというのは、この市民協働・ESDの取り組みの中では、とても大事になってくると思っしますので、そういった意味でも一つ「市民協働・ESD」というのは、この全体の取り組みの柱になっていくといいなというふうに中間支援の立場からはとても強く思っます。その中で、やはり面白い企業がある、格好いい大人がいる、面白い生き方があるということが、この岡山で展開されるということになってくると、それこそ、未来があるというか、右肩下がりだけではない、そういう中で工夫をしながら、やっっていける岡山の姿というのが見えてくるんじゃないかなというふうに思っます。

○越宗会長 はい。それじゃ、地域団体代表と言っますか、小山委員さん。

○小山委員 はい。まさに、連合町内会の大きな課題でもあります。先ほどありました女性の問題で、町内会長の女性がほとんどいない。実はこれからどうしていくか、男女共同参画の一つの部門があります、私もその中の一人でございます。もって行きようはあるんですね。というのがこれは申し訳ないんですけども、私のいる平島学区だけでお話しますと、学区にはそれぞれ「区づくり」という振興まつりをやっっているんですけども、私のほうは実行委員会のほうに、依頼して、実行委員会が全てやっってくれるんですけども、平島の実行委員会というのははっきり言って若者たちが実行委員です。したがって今年はこんな祭りだった、来年はどんな祭りだろうという夢を持たせる祭りになってくるんです。ところが、これが地域によっては同じ実行委員はいつまでもお年寄りで、失礼なんですけど、そうするとだんだんやることが同じなんで集客数が減ってくる。だから人の育て方、私は「区づくり」とは人づくりだということで最初からスタートしているんですけども、まさに、女性を表に生かしながらどうやっっていくかは大きな課題だと思っます。

実はちょっと話が変わりますけれども、昨日実は、若者が投票に行かないという話がありまして、これはやはり、どこかがポイントになってくるんですけども、平島の場合、いま言っっているように若いお母さん方が会議の中に入っていかれて、いろんなアイデアを出してくれる。素晴らしいアイデアを出してくれる。これは実はうれしいことなんです。

そんな中で、これからどうしていくか、女性という、ここに女性がたくさんいるので、言葉はちょっと語弊があるんですけど、女性が喜ぶことって何だろうかなと実は考えてきました。女性はですね、多分ここにいらっしゃる方は気がつくと思うんですけど、女性が喜ぶことは食べ物のお話をする、買い物のお話をしたり、旅行のお話をしたり。この三つを、ぐるぐる回したら、女性は常についてくる。こういうのが実はあって、それを一つの基本にしまして、平島学区では若いお母さん方をお願いをしてやっているわけですが、本当に、私は前に、今度岡山市で、初めての局長、市民協働局の局長の奥野さんがおられましたんで。奥野さんには本当に地域に出て行って、どんどん地域と接するようにしてくださいと、そうすると地域の女性たちがものすごく元気がつく。そこから共同参画が生まれます。だから言い換えれば岡山市、いま1人の局長ですけどね、あなたが岡山市を変えてくださいと以前お話をしました。

これからいろんな分野で変わってきます。岡山市連合町内会としても各学区の連合町内会長といろいろ話をしているんですけど、いろんな課題がいっぱいあります。ただ大切なことは、お互いにこれを共有していかないといけないと思います。ただ残念なのは地域に行けば行くほど、高齢化が進む、少子化が進む。人口が減るのは当たり前なんですけど、一番恐ろしいのは協働、ともに働く、動ける人口がもっと地域は減るということなんです。この問題をどうこれから捉えていくかなと思います。そこが大きな課題だと思います。協働、ともに働ける、動ける人口が地域はものすごく減ってくることを、私は認識して取り組まないといけないなとこういうふうに思っています。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。市民協働・E S Dに関心の深い梶谷委員さん。

○梶谷委員 はい。改めてこの市民協働、やはりその通りだと思うんですが、ぜひ行政マンが、いかに地域に出ていくかということが非常に大事だと思うんです。やはり我々企業人もそうだと思うんですが、仕事と家庭ともう一つは地域、この三つの役割を地域でも一つの役割を果たそうというような機運を作っていく必要があるのではないのかと。そのためにも、行政担当者の方が、やはり自分が住んでいるところの地域で何らかの役をしっかりと請け負いながら、それをまた行政に反映していくとか。そういった中で、企業人も住んでいる地域の活動をしっかりとしますと。逆に言うとそれができるような働き方を企業の中でどうつくっていくかということを生懸命やっていくことが大事になってくるのではないのかと。そうしないとリタイアした人で地域を何とかしようとならないし、人が育たないことになるという気がします。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○片山委員 多様化ということがよく言われます。そして多様性ということは、今の世の中のキーワードのひとつだと思うんですけども、いままでのところではあまりこの多様化とか多様性という言葉は出てきませんでした。この「市民協働・E S D」のところで急に多様性・多様化という言葉が増えております。市民活動が多様化しているのかなと思います。いま岡山市にいる外国人の数は、留学生も働く人も配偶者の人たちも合わせて人口の1.3%と聞いております。徐々に増えてきていると思います。この前もお話したように思いますが、岡山大学は2020年までに、いま500~600人くらいの留学生を2,000人にまで増やすと聞いておりました、これだけでもかなりの人数も国籍も増えてくると思います。そのほかに仕事、就職ということで、いま、グローバル化で海外に出ていく企業が多いので、そこで外国人を採用するというのも増えております。

そのようなことから考えますと、多文化共生社会ということになってくると思います。現在でもすでに多文化ですが、これからますますそういう社会になるのではないかと思います。なので、この多文化共生社会ということについても、ひと言何か入れていただけたらいいと思います。いままで見てきた中で、岡山市内、県内に大学がたくさんありますが、大学についてのことは何も出てきておりません。大学というのはアカデミックな教育の場であり、文化を発信するところであり、様々な研究をするところでもあり非常に多様なものを持っている場所だと思うんですね。大学についてはまた後ほど出てくるのかも分かりませんが、大学とどうコラボレーションしていくかということも取り組んでいく必要があるのかと思います。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ほかに、どうぞ。

○塩見委員 はい、ありがとうございます。市民活動の活性化の①の二番目のところなんですけど、「地縁組織だけでなく」となっていますけど、「地縁組織の活性化とともに」というふうに、地縁組織、我々の婦人会とかというの、やはり後継者を育てて、それぞれが地域でやっているのです。ですから前向きに、「地縁組織の活性化とともに」というふうにしていただけたらと思います。

○越宗会長 はい、どうぞ。

○杉山委員 私は多分、岡山市の最終的に、まとめのところでE S Dのような活動ということを中心になんかをつくらなければならないかなと思っていて、そういう意味ではラーニングシティみたいな、学習する都市であるというふうなことがいいんじゃないかなというように思っています。

そういう観点からしますと、例えば、いまいろんな形でNPOに対して、まちづくりとか

で補助金などいろいろ出していると思うんですけど、実は私の就実の学生一人が、消防団に入っています。消防団に入って、実際に火災があって、火災を消しに日中行ったそうです。非常に怖かったと言っていました。学生たちは18歳から、高校生から選挙権を持つわけですから、そういう人たちが、ある意味では若干リスクはあるけれども、そういうところに入って行って活動する。地域のために、そして自分たちの周りの、隣近所の人たちのためにというようなことはすごく大切なことで、私がぜひ行政にやってほしいのは、いろんなNPOに補助金を出されているわけで、例えばそういう大学生が、バイトに行かないで、そういう消防団活動をしているのであれば、それに対しては少し補助金を出してあげるとか、そういうことをエンカレッジしてほしいなと強く思っています。僕が見ているとその学生は参加することによって、随分先輩たちにはいじめられているとか言っていますが、すごく成長しているというふうに考えています。

それからさっき岡山型一貫教育ということで、関係委員のほうからお話ありましたけれども、ひと言だけその点について申し上げさせていただくと、保護者には参観日というのがあります。私はその逆をやれば良いと思っていて、子どもたちが両親、実はそこにダイバーシティということがあり、そこに我々が教育していかないといけない点もあるのですけども、つまり、シングルマザーとかそういうの、すごく多いんですよ。実は僕たちの学生なんかでも、あまり直接聞くわけにいかないですけど、そういう学生たちがすごく多い。だけどそれがノーマルなんだ、それが新しい状態なんだということを認めることが実際、ダイバーシティを認めることなんです。そういう教育を保護者参観で保護者の方も学校に来る、必ず年に1回は学生たちというか、生徒も保護者のところに行く。でもそこはシングルマザーたちがいっぱいいるかも分からない。だけどそれをちゃんと学ぶということは、僕はすごくいいのではないかなと思っています。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

○岡本委員 ここに「市民活動の活性化と参加と協働によるまちづくり」とあるんですけども、活性化の仕方というのがすごく大事と思っています。①のところには「地域の課題は地域で解決する協働の仕組みづくり」ということで、地域は地域でという、これを読むと何となく少し内向きな感じ、イメージを受けると思いました。活性化していくというのは、非常に柔軟性があって、流動的で、何か風通しのいいイメージがあるので、岡山の中外、内外のいいものを取り入れる、素敵なものを取り入れながら、内向きではなく、いいものを取り入れるためには大学も活用して、その柔軟性、流動性、風通しの良さというニュアンスが入るような表現であったり、考え方であったりとなるといいと思います。いいところをどんどん取り入れるには橋渡しをする機能も必要ですので、それを柔軟にできるような、例えば行政の中に橋渡し課みたいなものができるとか、そういったのも仕組みの一つと思いました。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。前には岡本委員さんから大学の活用などのご意見いただきました。ここの一番の最後の項目、「企業や大学等の事業者が地域の当事者となって、評価される仕組みの確立」と、これはぜひ進めていただきたい、前に動かしていただきたいと思います。それからNPO法人との協働というのが謳われているんですけども、やはりNPO法人の大変優れた実績を残している、そういう団体を評価して、表彰するという、そういう制度があってもいいんじゃないかなと私は思っております。特にほかにはご意見はございませんでしょうか。どうぞ。

○梶谷委員 全体を通してなんですけど、これはいろいろ書いてあるんですが、主体者がなかなか分かりにくいですね。企業がやるのか、市民がやるのか、行政がやるのか。できましたらこの中で、行政がやるべきことは明確に書かれたほうが、これは逆に言うと市民だとか、企業にやってほしいのか、少しそういった住み分けをして、こういうことをやっていくためには、行政としては何をやっていくのかということも明確にしたほうが分かりやすいのかなと。ここは行政として責任を持ってやる。ここは市民とか大学とかが責任を持ってやるというような形のほうが、誰が責任を取るのかというのが分かりにくいという感じがしました。

3 協議事項（2）その他

○越宗会長 すべてが明確にはちょっと言えないかもしれませんが、できるだけ。大体のご意見が出たように思います。それではですね、すいません、ちょっと時間をオーバーしていますので、協議事項（2）がございまして、その他になりますが、事務局から何かありますでしょうか。

○事務局（門田）はい。今回に引き続きまして、次回以降も2回にわたって政策分野別の長期的な方向性や課題について、ご審議いただく予定にしております。すでにお知らせしているかと思いますが、開催日程につきましては第4回を8月20日木曜日、第5回は8月25日火曜日ということで、開会はいずれも14時を予定いたしております。ご都合が合わない委員の方には大変恐縮でございますが、何卒ご了承くださいませようお願いいたします。それから9月以降の日程につきましては、ただいま調整中でございます。決まり次第ご連絡を差し上げたいと思っておりますので、よろしくようお願いいたします。

4 閉会

○越宗会長 はい。ただいまご説明にありましたように、来月8月にですね、2回にわたりまして、政策分野別の長期的な方向性についての協議を行ってまいりたいと思います。委員の皆さまにはですね、ご多忙でしょうけども、ぜひともご出席をいただきますよう、

よろしくお願いいいたします。これで本日の議事は終了となりますけれども、では最後に大森市長からお話をいただきたいと思います。

○大森市長 皆さん、今日はどうもありがとうございました。貴重な意見をいただきました。参考にさせていただきたいと思います。特に何と言いますか、長期的な考え方というところが、何人かの方からお話がありましたように金太郎飴というか、能面みたいな感じである。どこの都市でも、いつでもこの表現だったら大丈夫というような、そんな感じになっているというふうに思われたんじゃないかなというように思います。これは、一つは皆さん方に意見をどんどん言っていただくという意味もあるんですが、どちらかという間に合っていない。最終的なイメージがまだ間に合っていないというのが率直なところがあります。私として考えていることを少し申し上げたいと思いますが、まず数値目標は入れます。それをどこまで入れるのかは、またご議論いただきたいと思いますが、それからあと具体性。具体性もなければ基本計画にはならないわけではありますが、ただこれを別添にするのか、中に入れるのか、そういうテクニカルな面はありますけれども、そういった面を入れさせていただきたいというように思います。これは梶谷さんのおっしゃられた点についての我々の見解であります。それから横の中での何というか、特質というか、越宗会長がおっしゃった岡山らしさもできるだけものを出していかなければというような意識がございます。

今日ちょっとご議論がなかったのですが、縦の変化と言いますか、従前からやはり社会環境が変わっている。片山さんがおっしゃったダイバーシティみたいな議論もそういうことにあるのでしょうかけれども、それとともに世の中の環境変化もそうなんですが、岡山の中での環境変化。例えば教育の問題もいろんな指摘を受けている。こういった環境の変化をどうとらえるのかという、縦の変化をきちっととらえていかなければならないというように思っています。

最後、4番目なんですが、やはりパッションというか、こういうものはこうやっていくんだという情熱っていうのをどう表現していくのか。昨日もちょうど総合教育会議で、IPUの大橋理事長から教育について「本気度が足りない」というようなご指摘をいただきました。そういう面も、それも一種のパッションなんだろうと思いますが、この4点目が中々表現が難しいかもしれませんが、それをどう入れていくのかというのを、今日のご議論を参考にしてですね、入れさせていただきたいというように思います。

8月段階でどこまで、第4回、第5回、同じような切り口でやらしていただく。そこはあまり変わらないかもしれませんが、9月以降の実際のアウトプットのイメージでの議論になってくると思います。そこでまた、いろいろとご指摘をいただければというように思います。今日はどうもありがとうございました。

○越宗会長 ありがとうございました。今の市長がおっしゃったパッションとつながるか

どうか分かりませんが、私はやはりこういう表現、よろしいんじゃないですかと申し上げたこともあるんですけども、やはりメッセージ性の高いですね、本当に夢が膨らむような、そういうキャッチフレーズというものをいろいろ入れていただきたいと。ぜひともそういうような、これからの岡山らしさ、お願いしたいなと思っています。どうもありがとうございました。

○事務局（植月） これをもちまして本日の平成27年度第3回の岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆さま、お疲れさまでございました。

閉会